

Prólogo プロローグ

文: 桜田 ゆみ

照りつける太陽、抜けるような青い空、情熱の国スペイン南部、アンダルシア地方のマラガ県にあるロンダは、人口約3万5千人の小さな町です。ここに、毎年春になると、日本の桜の花が咲く、奇跡とも言える光景が見られます。ロンダは四方を山に囲まれた、標高700mの断崖絶壁の上に建つ、岩だらけの乾いた台地です。このような土地に、なぜ日本の桜は咲くことが出来たのでしょう。誰がどのようにして…

これは、日本とスペインを繋ぐ架け橋となり、桜植樹の夢を叶えようとした、 あるひとりの画家の記録、真実の物語です。

"PRIMAVERA" 「春」





MENSAJE

Es una satisfacción para mí, como Embajador de España, apoyar la publicación del excelente libro ilustrado "Sakura y Ronda. El sueño de un pintor". Dar a conocer la experiencia de Miki Haruta, pintor japonés que plantó cerezos en Ronda, ciudad en la que vivió, supone establecer un puente más entre los pueblos español y japonés.

Quiero felicitar a los promotores de esta iniciativa por su contribución en dar a conocer una experiencia más de las relaciones existentes entre España y Japón, e intensificar así la amistad, la mutua comprensión y el interés hacia la cultura española.

> Gonzalo de Benito Embajador de España

駐日スペイン大使として、素晴らしい絵本である「さくらとロンダーある絵画家の夢ー」の出版に際してお 力になれることを嬉しく思います。ロンダに在住し、桜の樹を植えた日本人画家春田美樹氏の体験を伝える ことが、スペインと日本の国民の間に更なる架け橋を築く事であると言えるでしょう。

スペインと日本の良好な関係を表す実話を伝え、両国の更なる友好関係、相互理解、そしてスペイン文化 への関心を促進するための、このイニシアティブにご貢献いただいた発起人の皆様にお喜び申し上げます。

> ゴンサロ・デ・ベニート 駐日スペイン大使

もし僕が先に逝っても

《春田氏の遺品の中から見つかったスペイン語の詩》

訳:小野 瑠奈アンヘラ 桜田 ゆみ

もし僕が君より先に逝っても、僕がいないからって、泣いてはいけないよ。

僕らが共に愛したものを大切にして、幸せに生きるんだ。

失われた世界の中で、僕を探すんじゃないよ。僕らはそんなことしなかっただろう? それよりも、僕らが出逢わなければ存在しなかった、素晴らしい出来事と共に、 僕を思い出してくれ。

僕は君のそばにいる。僕らが共に創りあげた、すべてのものの中にいる。

息子達、苦楽とともに流した汗と涙、その中に僕はいる。

数えきれないほどの思い出の中に、君がいて、僕がいる。

僕らの失敗、怠惰、間違いですら、僕らが天使ではなく、人間として生きた証しになる。

思い出や、物にすがってはいけないよ。

だって、僕らがいたところを見れば、僕らを知る人と話せば、その中に僕はいるのだから。

そんな人生は、これまでとは違うように感じるかもしれない。いや、きっと全然違うのだろう。

でも、もしも僕らが、こんなにも長い間、一緒に生きていくと決めなかったら、

きっと完全に違うものになっていただろう。僕らは、全く違う世界に生きていたと思うよ。

僕がいないからって、泣いてはいけないよ。そうしたら、僕の君への言葉が届かなくなって、

愛を感じられなくなってしまうから。でも、もし泣きたいなら泣いたっていい。

からだは感情を知らないけれど、何がおきたか知っていて、涙の粒でいっぱいになる。

言葉であらわせない悲しみは、瞳が語るものだから。

生きるんだ。何かを創りあげながら、生きるんだ。

僕も君のそばで、僕らがまだ見つけていない、何かを創るから。

まだ方法はわからないけれど、僕らが出会ったことのない、何かを…

よくわからないけれど… たとえば、枯れた小麦が、次に生える小麦の栄養となって、

新たな命を与えるのと同じようにね。

そんな僕の願いを心にとめて、軌跡を残していくんだ。

いつか君が僕のもとにやってきたとき、また声を上げて一緒に笑えるように。

次に抱き合うときには、もう離れることなく、一つになれるように。

きっとみんなは、こう言うよ。もしも僕らが愛し合っていなかったら、

世界はこんなにも素晴らしくなかったって。





EL SUEÑO DE UN PINTOR

~ある絵画家の夢~

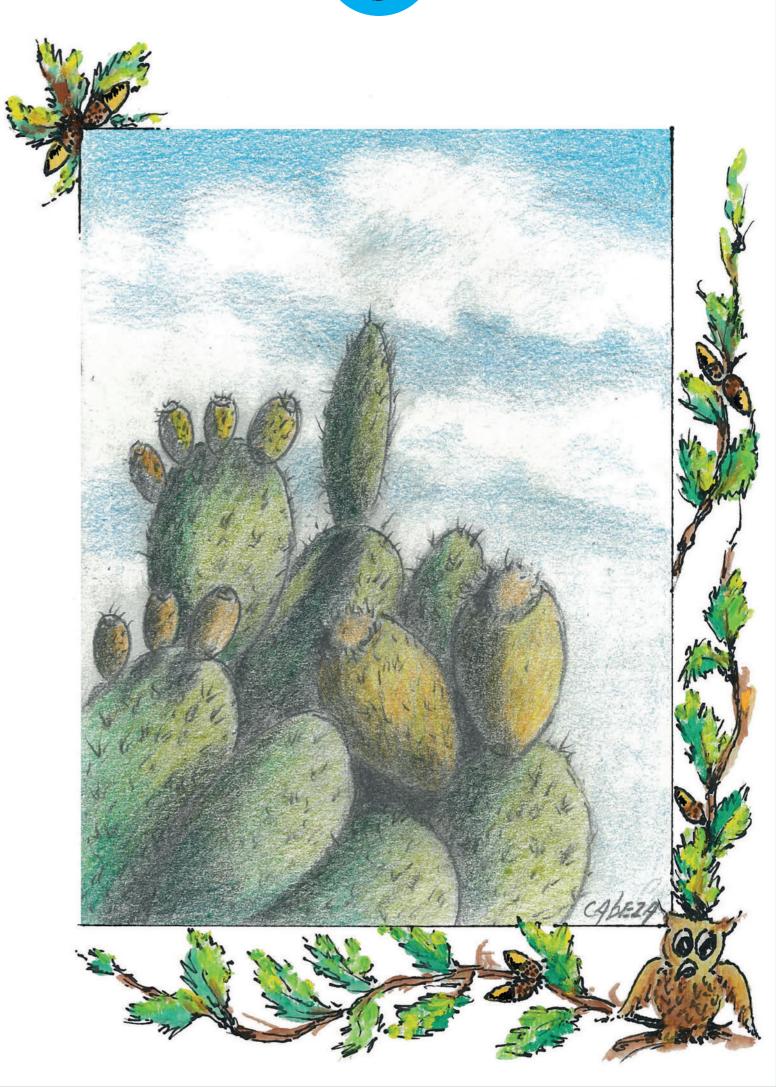
文: 桜田 ゆみ 訳: 小野 瑠奈アンヘラ

ロンダ、それはケルト人、フェニキア人、ローマ人、ギリシャ人、ゴート人、ビザンチン人、アラブ人、アンダルシア人の夢と、詩人、作家、芸術家、闘牛士の夢に溢れた町。 今は愛する桜と並んで、ブラス・インファンテ通りに眠る、ある日本人の画家も、そこに 夢をよせた一人でした。

画家の名は、春田美樹。戦後間もない昭和23年から30年代、日劇ミュージックホールで活躍していたエンターテイナーでした。政治や世論を風刺する漫画を、サラリと一筆で描いて笑わせる芸風で一躍人気者となり、テレビで毎日目にするほど忙しい、"神風タレント"と呼ばれていました。春田さんは、そろばん芸で一斉を風靡したトニー谷や、名優・森繁久彌らと共に海外公演を行い、アメリカにハワイ、香港、バンコク、マレーシア、フィリピンなどの東南アジアや、メキシコ、チリ、アルゼンチン、エクアドルなど、南米でも巡業し、座長、企画、プロデュース、マネージメントまで引き受け、勢力的に活動していました。

生まれは熊本、父親が満州鉄道の局長だったので満州育ち。中学生の時に日本に帰国し、アルバイトをしながら東京芸術大学に通いました。やがて生活のために、進駐軍の宿舎の壁に絵を描いたり、東京宝塚劇場で踊り子さんの絵を描いているうちに、一筆で女性のヌードの絵を描く芸が身に付き、楽屋での軽妙なトークが受けて舞台に立つようになり、芸能界入りしたというわけです。私生活では、二世アメリカ人のネリー真砂子さんと結婚し、2人の男の子が生まれました。

そんなある日、春田さんに転機が訪れました。ホテル・オークラで行われた、当時の首相 佐藤栄作総理のパーティーで、即興漫画のパフォーマンスをする仕事をした時の事です。 佐藤総理が、満州鉄道で下関の局長をしていた頃の満州局長が、春田さんのお父さんだっ たとわかったのです。驚いた総理は、春田さんにすぐに芸人を辞めて、きちんとした絵の 勉強をするように言い、さらに金銭面での援助もしてくれました。



それから間もなく、二つの大きな事故が春田さんを襲いました。一つは、奥さんが交通事故に会い、帰らぬ人になってしまったこと。もう一つは、過労とストレスにより白内障と緑内障をわずらい、医者に行く時間が惜しくて、自分で二セの処方箋をつくって薬屋で買った眼薬をさし、左目を失明したことです。薬の正しい処方の仕方は、100 倍に薄めて使わねばならない、劇薬だったのです。希望を失った春田さんの性格は暗くなり、自殺を考えることもありました。しかし、海外巡業で元気を取り戻したのでした。

あるとき新宿のスペイン料理店で、有名な画家、東郷青児氏の娘の東郷たまみさんと出会いました。その縁で東郷青児氏の秘書になり、再び画家を目指すようになりました。

二科展特選、岸総理大臣賞の受賞歴もある春田さんは、佐藤総理の援助金を持って、絵の勉強のためにヨーロッパをまわることにしました。奥さんを亡くし、男手一つで子育てをしてきた春田さんは、2人の息子さんに「パパに2ヶ月だけ休みをくれ。」と頼み、出発します。1975年、春田さん52歳、ヨーロッパ修行の旅が始まりました。

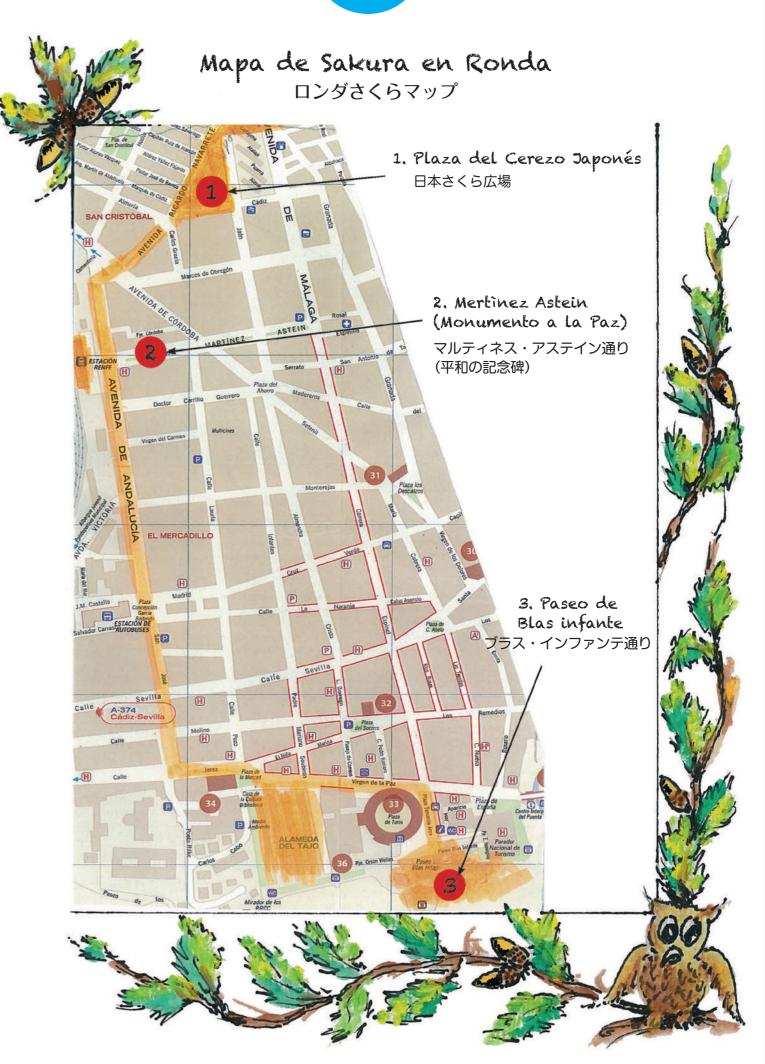
ヨーロッパの最後にやってきたのがロンダです。ここで東郷青児氏の友人の、ある画家の家に立ち寄りました。かつての偉大なアンダルシアの画家、テレス・ロリギーリョ氏が暮らした家で、春田さんは彼の未亡人と、その養女レメディオ嬢と出逢いました。

未亡人は親切で優しい春田さんを気に入り、夫の残した大きなアトリエを春田さんに譲りたいと言い、8歳年下の養女レメディオと結婚してほしいと願いました。

しかし春田さんは日本に戻り、銀座三越で個展を開くなど、画家として日本で活躍し始める のでした。

時が経ち、長男も結婚して、次男もそろそろ…となった頃、ふとロンダの未亡人のことが気になり、電話をかけました。すると、「すぐにロンダに戻って来てほしい。」と言われたので、「はい、わかりました。」と返事をしました。この時に、よく解らないスペイン語での電話のやりとりで答えた、「はい、わかりました。」という返事が、レメディオさんと結婚するかと問われての答えだったようで、結婚を承諾した形となりました。…と、ある雑誌の取材で語られた馴れ初めは、きっと春田さんの照れ隠しだったのでしょう。二人が互いに惹かれ、愛し合っていたのは言うまでもありません。

こうして、初めてロンダに足を踏み入れてから4年後の1979年、春田さんはロンダの美 しい女性レメディオさんと結婚式をあげるために、ロンダに戻ることになったのです。



さて、春田さんがロンダに移り住んでから5年が経っても、日本人は春田さん一人だけでした。意を決して移り住んだスペインの田舎で、孤独を感じていたのでしょう。日本が恋しくてたまらなくなりました。そこで楽しみとして、スペインと日本の文化交流に身を捧げ、熱心に活動を行うことにしたのです。

その頃のスペインは、フランコ体制が終わって数年は経っていたものの、経済や社会面では他のヨーロッパの国に比べると、まだまだ遅れていました。ですが春田さんのおかげで、ロンダを訪れる観光客は、年々増えて行きました。ロンダでただ一人の日本人として、アンダルシアの数少ない日本人とともに、日本人滞在者の問題や事故の解決をボランティアで引き受けました。

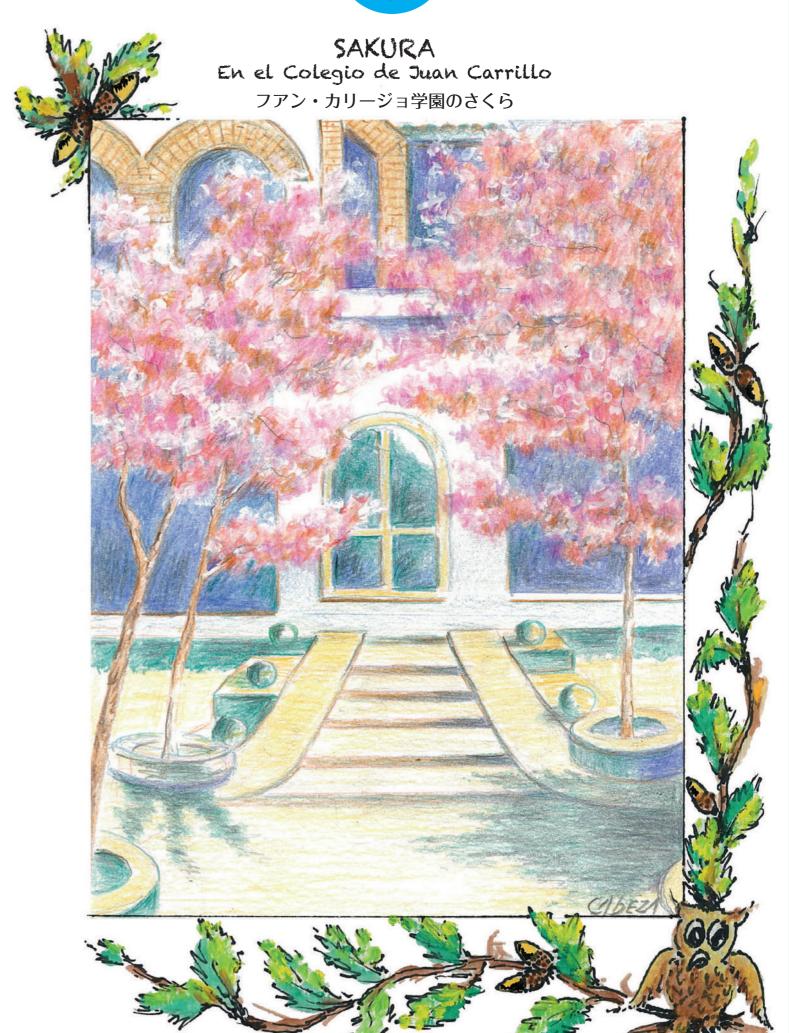
また、空港での死亡事故、交通事故、自殺や盗難といった事件の際には、様々な機関が春田さんに助けを求め、さらに通訳、ガイド、結婚式のアシスタントなども行っていたので、もはや日本人の問題が全部、春田さんに預けられているかのようでした。春田さんは多忙であるにもかかわらず、すべての人を公平に助けました。彼はスペインと日本の大使であり、二カ国を繋ぐ橋だったのです。

間もなく春田さんは、日本を思って寂しくなることも忘れ、ロンダやアンダルシアの人々の素晴らしさに心を奪われていきました。いつの間にか、アンダルシアが日本よりも貧しいということなど、気にしなくなっていたのです。人々の暖かさや、人生を楽しく生きる姿を見るうちに、アンダルシア人は豊かで深みのある人生を送っているのだと感じ、夢中でアンダルシアの景色を描きました。日本の穏やかな、それとは大きく違った光の魔法に心を奪われたのです。春田さんは3年ごとに友人の協力を得て、日本の名高い画廊で大きな個展を行い、その収益のほとんどを、愛するアンダルシアの町のために使いました。

日本に数ヶ月滞在し、ロンダに戻ったある日のことでした。春田さんは、自分がどれほどスペインと日本の文化交流に貢献し、多くのスペイン人を楽しませてきたのかを思い起こし、そうした過去の事業が、すぐに忘れ去られてしまうことに気付きました。

例えば、"ラ・セマナ・デ・ハポン(日本週間)"と題したイベントも、春田さんが日本へ発つ前に、 たくさんの情熱と費用をかけて開催したものでしたが、お祭りが終わった後は、それを思い返す 人も、伝える人もいなかったのです。

「自分が死んだら、自分という日本人がロンダに 10 年以上暮らし、アンダルシアを愛し、アンダルシアと日本の間で懸命に働いたことなど、誰にも思い出してもらえないかもしれない…。」 春田さんは、孤独と悲しみで、心が空っぽになってしまうように感じたのでした。



あるとき、春田さんは田園に咲く、桜に似たアーモンドの花を眺め、日本の桜を懐かしく思いました。「ロンダに日本の桜が咲いたら、どんなに素晴らしいだろう! |

桜は日本人の魂です。春田さんの人生でも、たくさんの思い出がある、幸せの象徴でした。春田さんは、スペインと日本の友好と、永遠の平和のシンボルとして、そしてアンダルシアの人々が、ロンダに住む一人の日本人に与えてくれた優しさへのお礼として、ロンダに桜を植えたいと思いました。

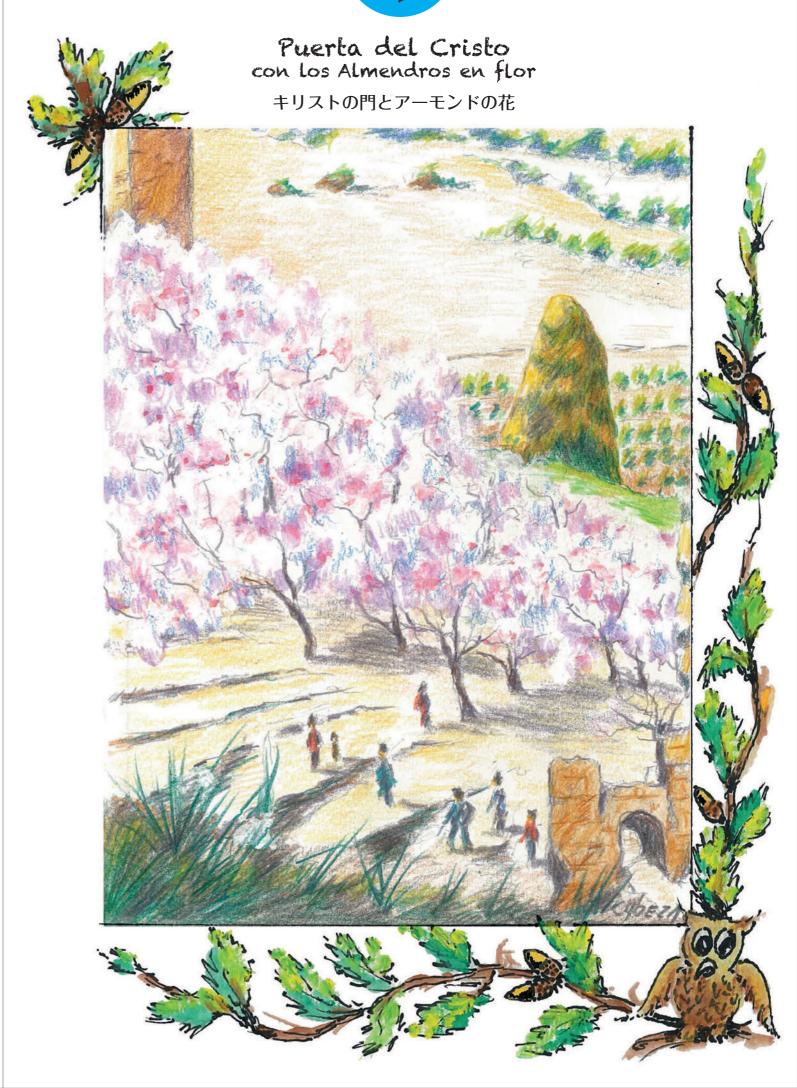
「たとえ時代とともに住む人が変わっても、桜はずっと咲き続ける。日本の桜を植樹すれば、将来ここに来る旅行者にも、100年後のロンダの人たちにも、僕や日本のことを伝えられる。日本で生まれ、満州で育ち、仕事で世界を周り、50歳を過ぎてこうしてスペインに住み、まるで放浪するように生きてきた僕を、ロンダの人たちは暖かく迎えてくれた。その感謝をこめて、日本の桜を植えたい!」

ロンダのある友人は、ロンダがワシントンのポトマックのようになれば素晴らしいだろうと言いました。ポトマック・パークは、100年前に日本からアメリカに贈られた、桜並木で有名な公園です。毎春、大勢の観光客が世界中から訪れ、特に桜祭りは大行列とともに盛大に祝われます。

春田さんはすぐに行動にうつしました。マドリードの日本大使館や日本の企業、日本人の友人を訪ね、アンダルシアに日本の桜を植えることができるかどうかを相談しました。すると皆が口をそろえて、「だめだ、できない、無理だ。」と言いました。そこには、二つの大きな問題があったのです。一つは、動植物衛生検査上の問題でした。欧州の衛生検査は特に厳しく、日本の桜が持つウイルスのために輸入が難しく、許可が下りる可能性は無いに等しかったのです。もう一つは気候の問題でした。アンダルシアの気候はとても乾燥していて、穏やかで降雨量が多く、湿気の多い日本の気候とは正反対なので、桜を育てるには全く適していませんでした。春田さんが頼んだ人々によれば、過去にも同じような試みはあったけれど、一度も成功しなかったと…。春田さんは希望を失いかけましたが、諦めたくはありませんでした。

ある時、ひとりの日本人女性が、「桜の種ならば、衛生上の問題は無いのでは?」と思いつきました。そこで、日本から 3000 もの種をロンダへ運び、町の学校や家に配ることにしました。

ロンダの人々は、種が芽吹くのを今か今かと待ちました。しかし一つとして芽は出ず、すべて の期待は裏切られたかのように思えました。



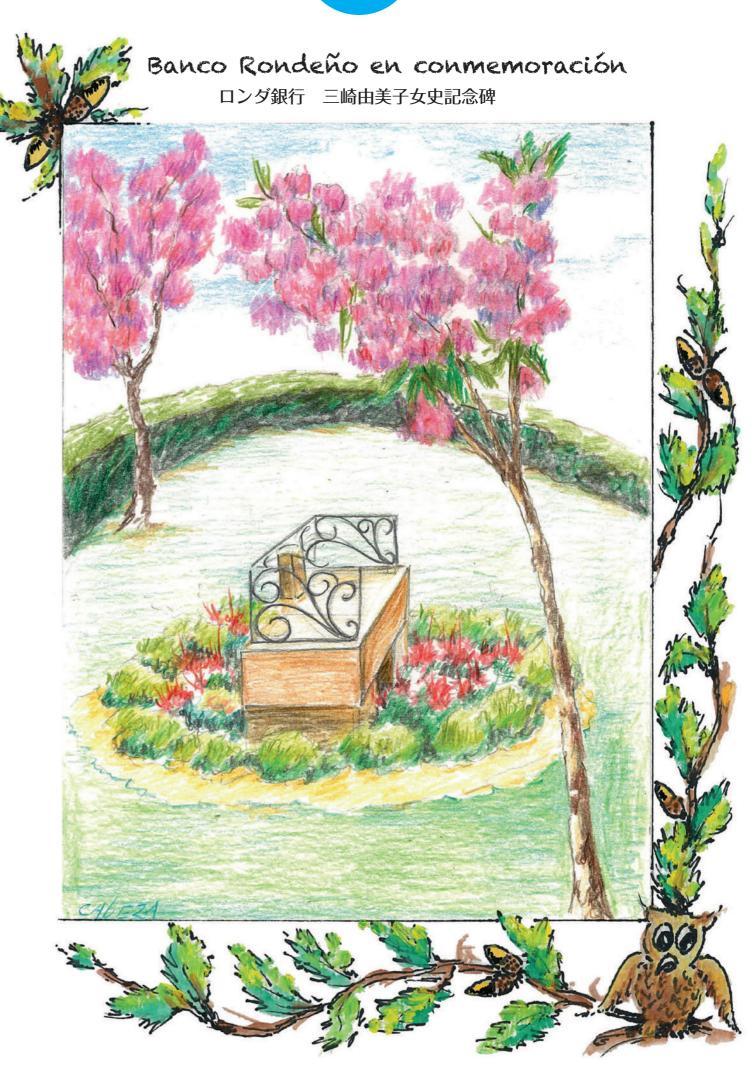
1984年、チャンスは突然やってきました。その年、セビリヤと姉妹区を結んだ横浜市の経済交流が行われ、横浜にひまわりを植えるイベントが開催されました。そして横浜港南区長の下山貞明氏が、セビリヤから招待を受け、盛大なパーティーが催されました。区長は、「スペインに住む日本人なら、誰でも参加できるパーティーにしよう。」と告知をしたので、その情報を聞いた春田さんは、奥さんのレメディオさんと一緒にセビリヤに行きました。

この会場で、春田さんは藁をもすがる思いで区長に助けを求めました。区長は夢を見る事が 大好きな人だったので、春田さんの情熱に心を動かされ、区長の職を辞した後、全面的に協力 することを約束しました。春田さんは、暗闇の中に一筋の光が見え始めたのを感じました。 その間、レメディオさんと友人は、公共のラジオや情報誌、イベントなどで、「ロンダに桜を 植えよう!」と宣伝を行い、やがてロンダ市長も成功を願うようになりました。

1989年、春田さんはロンダ市長の手紙を手に、引退した元区長の下山氏を訪ね、文化交流として日本のシンボル"桜"をロンダに、ロンダのシンボル"ピンサポの木"を日本に植えることに協力してほしいと頼みました。ロンダではすでに、桜のための寄付金受付の準備も始まっていました。下山氏は約束通り、春田さんの夢を実現する方法を探し始めました。外務省、スペイン大使館、政府機関、様々な団体に相談し、プロジェクト実行のための私的な協会をつくることを決めたのです。

1990年、いくつかの新聞で、横浜とスペインの交流を行う協会の設立を知らせました。協会は日本の桜を植え、友好関係の促進を目的とすることにしました。会員を募り、寄付を求めると、およそ80人が集まり、3000の種と200本の苗が購入できる資金も集まりました。また、会長は検疫や通関についての研究も重ねました。その後、"日本桜の会"の研究報告で、沖縄でも咲く種類の桜が、ロンダの気候には適しているということや、フランスで栽培されている日本の桜の苗木を、現地で購入出来ることもわかりました。

1991 年、良い知らせが届きました。スペインの北方バルセロナの外側で、ある日本の企業が桜を植えることに成功したというのです。この知らせで、少なくとも衛生上の問題は解決できるという希望が生まれました。



会長がすぐにその企業と連絡をとって相談をすると、一年あれば衛生問題も含め、すべての 準備を整えられると教えてくれました。早速、日本の花を扱う企業に、アンダルシアの気候条 件に最も適した桜の種類を選んでくれるように頼み、スペイン大使館にも協力を求め、プロ ジェクト成功のために出来る限りのことをしました。

その年、会長は春田さんから、心のこもった手紙を受け取りました。桜への思いが綴られた 10 枚にもおよぶ長い手紙です。このとき春田さんは、身体に異変を感じていました。 もともと肺が弱かったところに、風邪をこじらせて肺炎になり、冬はリュウマチに悩まされ、心臓も患っていたのです。

下山貞明会長、実はこのところ、身体の方がかんばしくありません。わたしの命は残り少な いようです。この命を落とす前に、ロンダに咲く桜が見たいと思っておりましたが、それまで 丈夫でいられる自信がありません。僕は、血は日本人だけど、ロンダ人です。

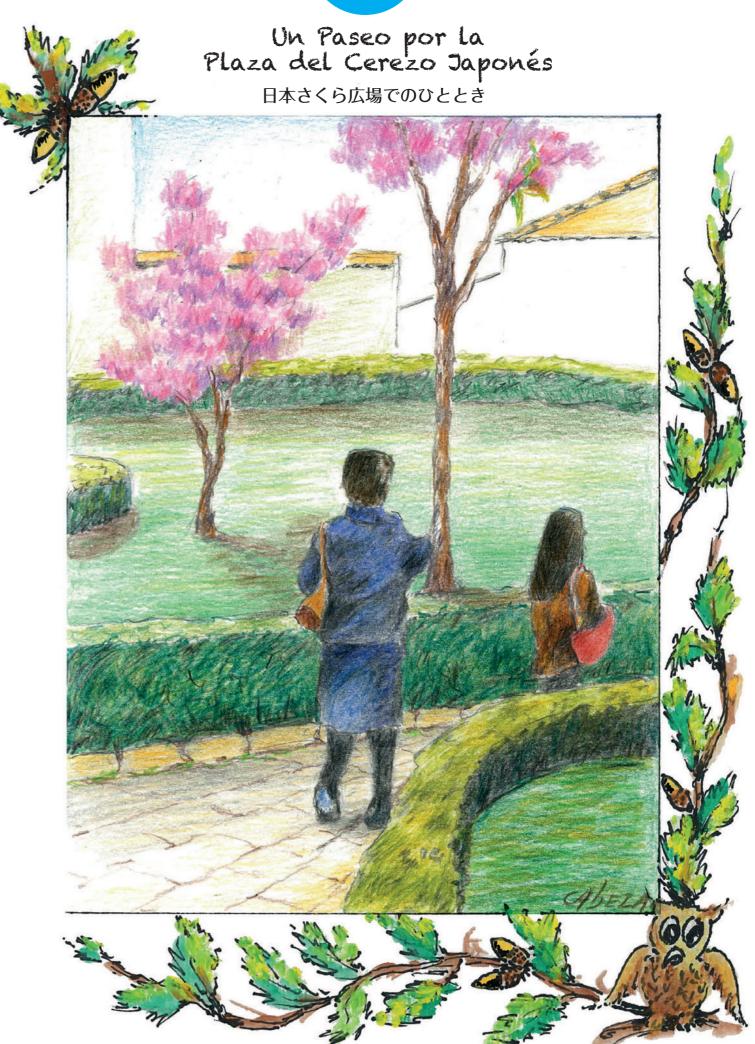
40 年近くいた芸能界で、虚名やむなしさを痛感し、修羅場を生きてきた僕を、ロンダの人は 暖かく迎えてくれました。人生最期の願いは、ロンダと日本を繋ぐ橋の土台の一部になる こと… 一番下の小さな小石でいいのです。 僕の名前など残さなくていいですから、ロンダ に桜を咲かせる夢を叶えさせて下さい。僕が死んでも、桜は 100 年先も咲いてくれます。

《春田美樹氏の手紙より抜粋》

1993年3月、ついに使節団は200の桜の苗とともに、ロンダへ旅立ちました。 桜はアンダルシアに適した数種が選ばれました。ロンダで盛大な苗木の植樹記念の式典が行われ、使節団は町の人々から熱狂とともに歓迎されました。春田さんと協会長、そしてロンダ市長は、そろって桜の苗をブラス・インファンテ通りの公園に植えました。ロンダ市長のはからいで、苗木と同じ100センチの背丈の現地の小学生70人が参加し、折り紙教室や押し花教室も開催され、市をあげての国際交流が行われました。

春田さんもレメディオさんも、使節団のメンバーも、みんな大喜びでした。

春田さんは楽園にいるような気分だったのと同時に、もう間もなく自分は死ぬだろう…と思いました。公園には、横浜スペイン協会と東京のライオンズクラブからの寄付を示す記念碑が建てられました。石塔は、ロンダの人々のデザインの中から、コンクールで選ばれたものをもとに造られました。



春田さんは日本に戻り、1995年2月3日、2人の息子さんのもとで静かに生きを引き取りました。桜の植樹から2年と経たないうちに、天国へと召されたのです。

ロンダで 20 年間の幸せな日々を過ごし、夢を叶えた後は、咲いた桜を見ることなく、その人生を終えたのでした。

人は死ぬために生まれ… 生きるため死ぬ… 《春田美樹画伯・記念碑の言葉より》

その後、厳しい干ばつがスペインを襲い、ほとんどの桜が枯れてしまいました。30 本だけ生き残っているとの連絡に、使節団の皆はがっかりしました。ですが春田さんとの約束を思い出し、もう一度ロンダに桜を植える決心をしたのです。

ところが、時代は大きく変わり、EU 加盟国となったスペインの、桜に対する植物衛生検査はより厳しくなり、根のついた桜を輸入することは、完全に禁じられてしまいました。

2回目の植樹は、新しい方法を考えなければなりませんでした。根がない状態で桜を植える方法… それは接ぎ木です。会長は専門家を通して、接ぎ木に適したスペインの植物を探し求め、ついにヨーロッパで、桜の一種にあたる植物を見つけました。 桜に良く似た、スペインのサクランボの木を土台にすれば、育ちやすいとわかったのです。

1995年、宮城スペイン協会と協力し、セビリヤにて、日本の職人からロンダの職人へ、接ぎ木の指導が行われました。

1998年の春も、宮城スペイン協会とともに、500の苗をセビリヤに寄付しました。 そして最大の目的である、第2回目の植樹のセレモニーを行うため、スペインで50の苗を購入し、協会の事務局長が、接ぎ木のための日本の桜の枝をバスクで手に入れ、50本の植樹に成功しました。この時も、同行した日本の樹木の専門家が、ロンダの植木職人に接ぎ木の技術を教えました。また、1回目と同様に文化交流として、折り紙教室や、押し花教室をロンダの人々と行い、この交流によって使節団は、活動を援助するロンダの人々から、ペドロ・ロメロの秋のお祭りに招待されました。

2000年には、ロンダの代表者の人々が日本に招待され、様々なところで満開になった桜を眺めて楽しみました。



2003年、春田さんが亡くなってから8年後のことです。一つ…、また一つと、桜につぼみが付き始め、見事に開花しました。最初の植樹から10年経って、ようやく大輪の花を咲かせ満開となりました。1回目の植樹後の干ばつで生き残った30本の桜も順調に根付き、小学校の校庭、軍人学校宿舎の庭、農家の庭で大木と成り、同じ年に咲きました。

2005年、協会はロンダへ3度目の使節団を送りました。接ぎ木で栽培された日本の桜が、ロンダの大きな農園で育ち、それを公園に植えるセレモニーが行われました。 この公園は、"日本さくら広場"と名付けられました。「ようやくロンダで、長年の望みだった、日本の桜を育てることができる。」と、ロンダの植木職人は言いました。この時、日本の

桜と一緒に、ロンダのシンボルのピンサポの木も、公園に植えられました。 こうして、ロンダに日本の桜を植えるという、使節団の役目が成し遂げられたのです。 なんと喜ばしいことでしょう!天国の春田さんも見ているでしょうか!使節団のメンバーも

ロンダの人々も、日本の桜がロンダで満開になるのを見て、大いに喜びました。

2010年、協会が20周年を迎えて間もなく、春田さんの理解者だった下山会長が天国へと旅立ちました。

ロンダに 20 年間住んだ、ある夢を持った男。友の愛を忘れず、第 2 次世界大戦の悲劇を経験し、平和を求め、スペインと日本の間の小さな橋になることを願った人… 日本男児の血を持ちながら、アンダルシアの魂を持ち、桜の花のように優しい心を持ちながら、侍のように前向きな強さを持った人、春田美樹。彼の灰は今、夢の桜の木の近くに眠っています。

そして、ひとりの絵画家の夢を叶えるために設立した協会の、20 周年に亡くなった人物も、 決して希望を捨てない、もう一人の侍でした。

大きな虹のような橋、神様からの贈り物の彼らは、きっと天国でともに喜び、微笑み、 その桜を眺めていることでしょう。そのずっとずっと下で、毎春ロンダではたくさんの日本 の桜が、スペインと日本の協力が実った証として咲いています。

「世界は小さなハンカチのようなものだ…」と、春田さんは言いました。

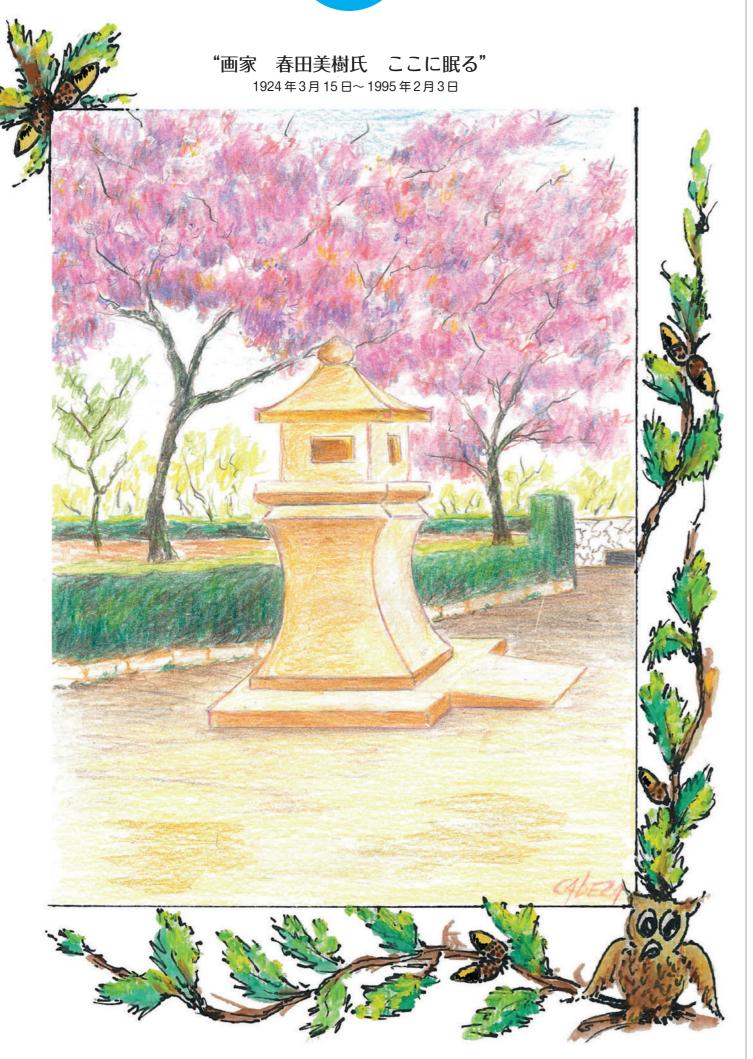
ロンダの桜は、いつか世界中からたくさんの旅行者が訪れ、ヨーロッパのポトマックと呼ばれる日が来ることを願い、今も美しく咲いています。

《おわり》

この文は、中村 瑛子女史のスペイン語の手記をもとにしています。













MIKI HARUTA 春田美樹氏

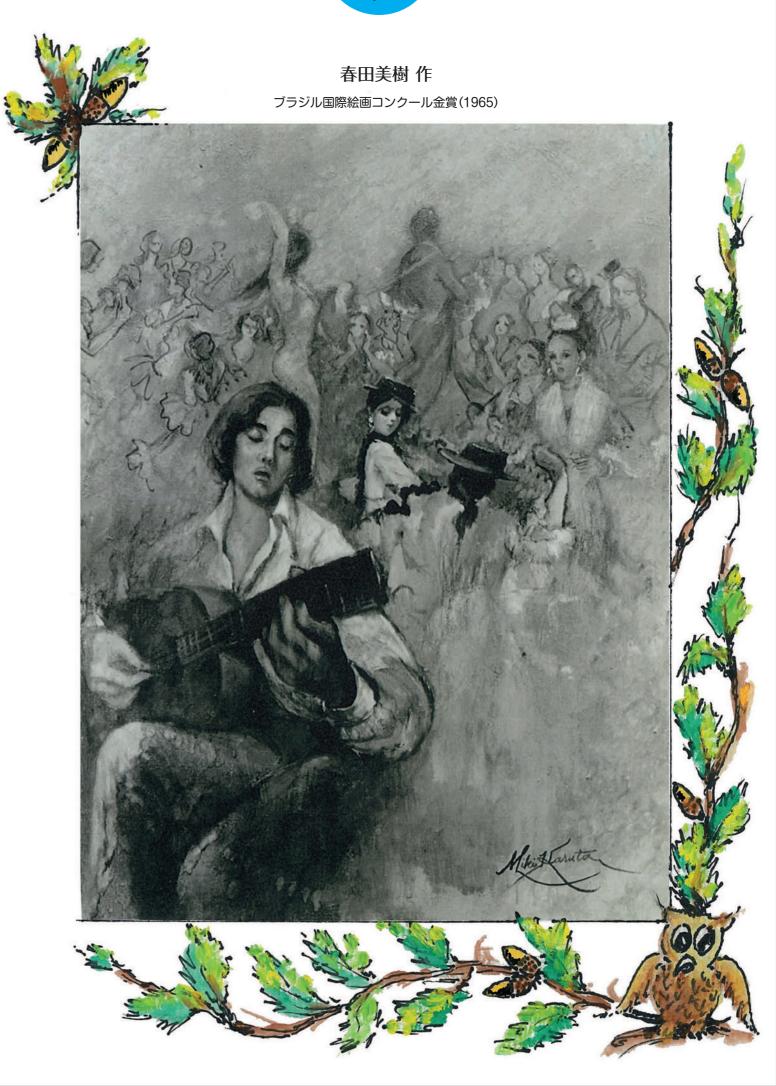
日本に生まれながら、真のロンダ人として生きた絵画家。彼は"魅惑の街" ロンダを日本に伝えた。

魅力溢れる作品を生み出し、ロンダ市の良心として生きたことから、 同市では偉人として今も語り継がれている。

後生は芸術文化の第一人者として同市でたたえられた一方、青年たちとの コンサートや、民族音楽アブル・ベカを通して、スペインと日本の文化交流 を切り開いた人物。

東京では、レメディオス・ロドリゲス・ルケ夫人が春田氏への追悼のもと、フラメンコギターとロンダの民謡と舞踊のコラボレーションによるコンサートを行い、彼のロンダにおける貢献とその人となりに、多くの人々が励まされたことを伝えた。

天に召された今も、彼が生きた証しは、多くの人々の心に残っている。 そんな彼が作り上げた、日本とロンダのつながりを忘れることなく大切に していきたい。







MIKI HARUTA 春田美樹氏

ロンダにおいて驚くべき芸術的才能を発揮し、ロンダの女性レメディオス・ロドリゲス女史と家庭を持ち、ロンダに生きた彼に捧げる。一方、彼はロンダのみならず横浜にも拠点を置いていたため、両市に遺骨を分骨することを望んでいたので、逝去した木曜日、その意志は尊重された。





二人の画家 春田氏とペペ・カベサ氏の交流



ロンダ文化会館にて日本打掛展示会を開催 (1985年3月4~10日)



親愛なる皆様へ、

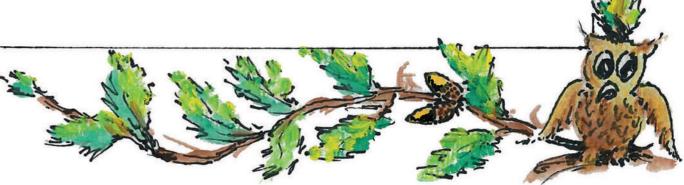
弊会を代表し、貴殿のご協力とご支援のもと「金井千代 日本掛け軸展示 会」を開催し、成功を収められましたことを心より感謝申し上げます。

今後も弊会の作品を通して、このような交流の機会を持つ事ができますよ う、心から願っております。

> 1993年4月 金井千代 春田 美樹



文化部代表: アントニオ・D・ラサンタ 絵画家: 春田美樹 ロンダの芸術家: ペペ・カベサ





"春田美樹氏をたたえる記念碑" ブラス・インファンテ通り

記事の見出し:

ロンダ市、日本人の芸術家、春田美樹氏に敬意を表する

記事の日本語訳:

ある日、背の低いたばこをくわえた画家、春田美樹氏がロンダを訪れた。

日本人の彼は、まったく違った文化を持っているのにもかかわらず、スペイン 語をしゃべり、その芸術的才能を発揮した。ロンダに移り住む前は、暗い 彩色の作品が多かったが、アンダルシアの光に出逢ってからは、明るい彩色 によって、我らのロンダの地の美しさ、そして澄み渡る町の風景を描いた 作品を生み出した。彼が我々に与えた愛が、天に生きる同氏のもとへ届くこ とを祈る。春田美樹氏への感謝の気持ちをこめて。

これらは、春田氏と親交をもった絵画家ホセ・カベサのことばである。

写真:

絵画家ホセ・カベサによる、春田氏に捧げる記念碑



ciudad de Ronda homenaj artista japonés Miki Haruta

tierra y pueblos.

Estas son las palabras textuales que el artista José Cabeza dedica a su gran amigo Miki Haruta.

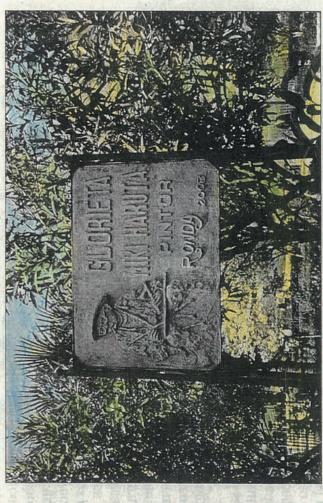
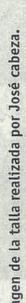
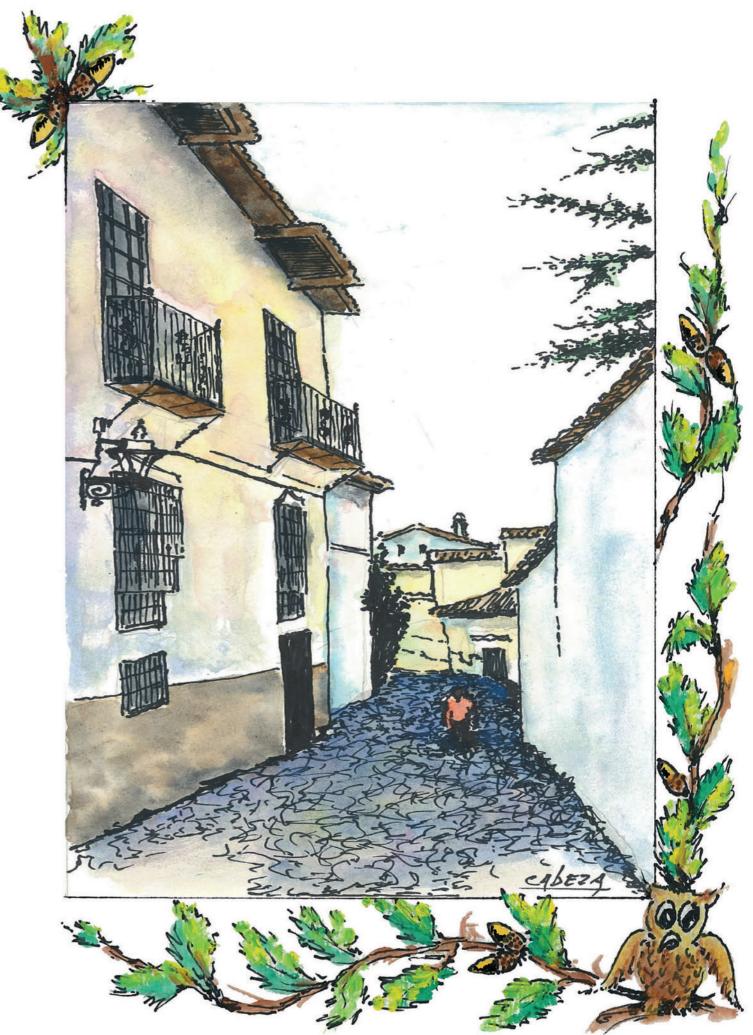


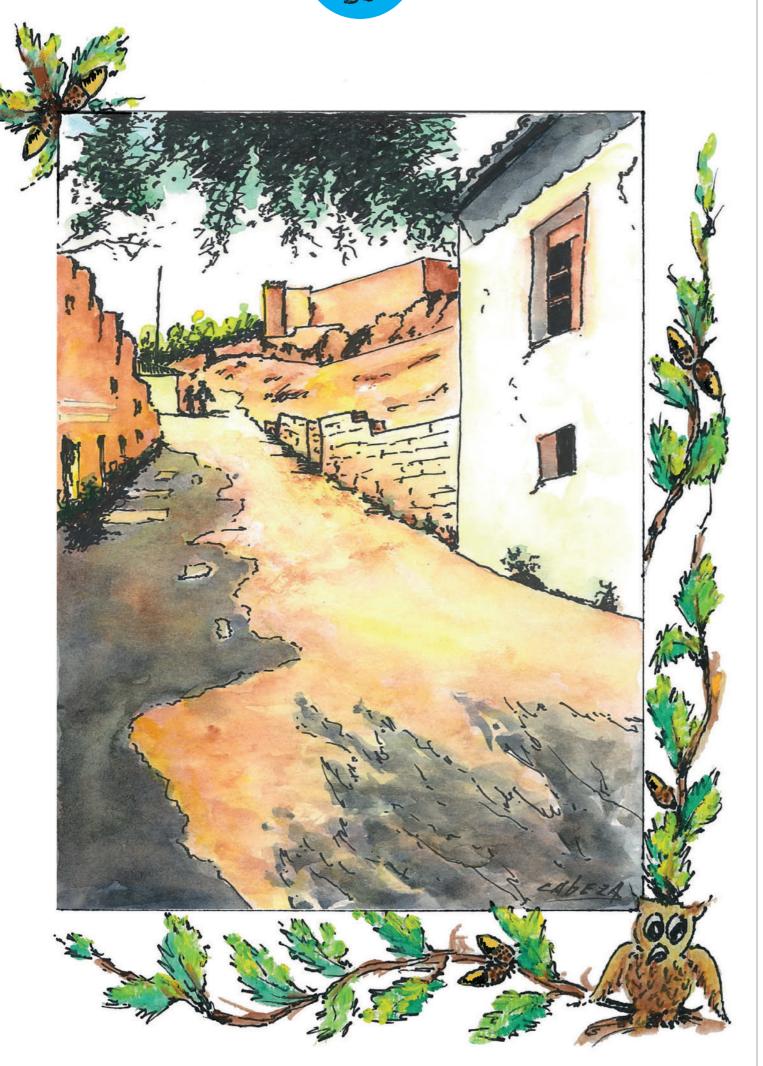
Imagen de la talla realizada

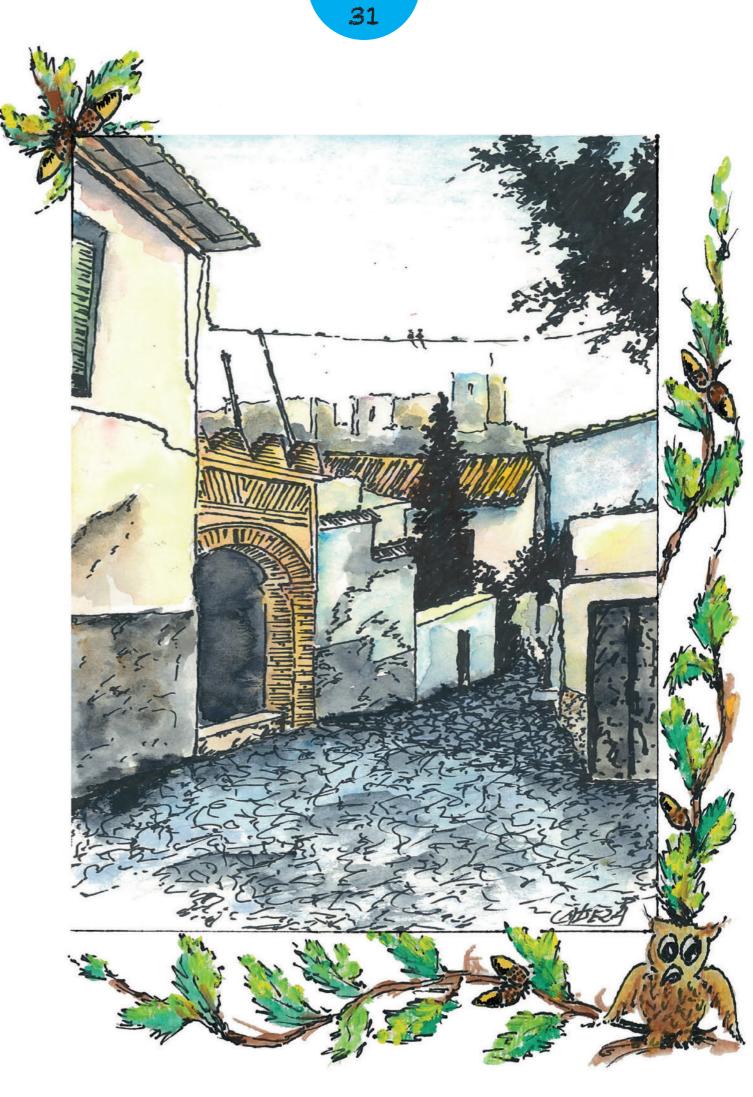


















"Mi Pueblo" 「わが町」

詩: イサベル・カベサ 訳: 小野瑠奈 アンヘラ 桜田 ゆみ

ロンダ、そこは人々が交わる町 知られざる魅力を詰め込んだ小さなトランク 君のために人々が訪れ、思い出を残していく

> その一つ一つが伝説になる 未知と幻想、喜びと人生 勇気あるものたちの物語

ロンダ、君は歌、踊り、そしてフラメンコと共に育った

輝かしい歴史、勇敢な戦士たちの魂を、祖父たちが受け継ぎ、 この誇り高く、健やかな町を築き上げた

美しき渓谷のもと、ふたつの村がひとつの町になった そのころのロンダを、もう見ることはできない そう、思い出と活気に満ちた大地は、時とともに変わっていった



ぼくたちは忘れてしまったのか みなで遊んだ、草花と森の仲間たちに恵まれた、あの大地を

その地が消えていくどんどん遠くなっていく

皆が言うんだ ロンダ、君はこの世の星だと アンダルシアの夏と冬を輝かせる町だと

時には銀色の世界が広がり、人々はその景色を眺める だから言ったんだ この地はすべての季節が美しい

ロンダ、そこは安らぎの地 年を重ねた者たちが求める、 かつて別れを告げ、旅立った町

ここは終わりの地 かつての青年が、老いて戻る町 ここは終わりの地 彼らの夢が眠る町



絵本冊子「さくらとロンダ」編集記 ~桜になった瑛子さん~

文: 桜田 ゆみ

この絵本冊子を手にとってくださったすべての方に、感謝申し上げます。時を少し遡り、筆者が 絵本冊子"さくらとロンダ"の発表に取り組む事になった経緯を、お伝えいたします。

スペイン語の手記、『El sueño de un pintor (ある絵画家の夢)』を書かれた中村瑛子さんと筆者は、 ロンダでの桜植樹を目的として、1990年に発足された横浜スペイン協会で2010年に出逢いまし た。当時筆者は、協会設立の由来を知らずにおりましたが、瑛子さんから詳しく教わり、その後、 「こういう文を書いたのだけれど、この先、忘れられてしまわないように、未来の人たちに伝えてほ しいの。協会設立時の桜植樹メンバーは高齢で退会し、亡くなった方も多く、もうわたししか残っ ていないのよ。とにかくあなたに渡すからなんとかして!」と、スペイン語の手記を預かることに なったのです。

画家であり、過去に絵描きタレントでもあった春田氏の生き方や、スペインと日本を繋ぎ、平和 を願う心に感銘を受けた筆者は、自身もオペラ歌手の傍ら漫才タレントをしていたことや、春田氏 と同時期にスペインに住んでいた偶然も重なり、共感いたしました。

2015年、桜植樹に協力した協会の25周年記念 事業に於いて、春田氏の半生を舞台化することには 大きな意味があると思い、瑛子さんのスペイン語の 手記をもとに、オリジナル喜歌劇、サルスエラ『Los Cerezos en Flor de Ronda ロンダに咲いた桜』の脚本 と演出を手がけ、公演を行いました。

このとき瑛子さんから、物語をスペイン語と日本 語の絵本にしたいとの相談を受けました。ロンダを 《サルスエラ「ロンダに咲いた桜」より春田さんと桜の精》 訪れる旅行者や街の人たちに、桜とロンダの歴史を



知ってもらう目的で絵本を作り、挿絵は、春田氏と瑛子さんの親友で、ロンダ市の画家、彫刻家の ホセ・カベサ氏に依頼したいと語っていましたが、瑛子さんは2016年10月10日、天国へ旅立た れました。スペインからイタリアへの旅先で亡くなるという突然の悲報により、彼女の夢と願いも 途切れたかのように思われました。

翌年2017年の春、筆者はスペイン国王フェリペ6世訪日の際、謁見の儀にてサルスエラを通し た日西文化交流への貢献に対して奨励を賜りました。国王陛下からいただいた、「より大切なのは、 日本・スペイン両国国民の知的交流により、お互いが相手の国に惹かれ、強い親愛の情を抱いてい るということです。」このお言葉を胸に、さらに深い文化外交と平和構築のお役に立てればという思 いで、瑛子さんの願いを引き継ぎ、託された夢とスペイン語の手記を持って、マドリードに住む筆 者の娘を伴い、ロンダ市の画家ホセ・カベサ氏を訪ねることにしたのです。

カベサ氏は、瑛子さんの言葉を伝えに来た筆者親子を歓迎してくださり、絵本の制作も挿絵の依頼 も快諾、すべて無償で行い、すぐに取り組むと約束してくださいました。床屋から彫刻家になった カベサ氏は、ロンダで春田氏と出会い、アーティスト同士の深い交流が生まれたとのことです。 アトリエには春田氏の肖像画が、春田氏が眠る公園にはカベサ氏作の記念碑がありました。

これらの事情をご理解くださった瑛子さんのご主 人様、中村篤二様に印刷代を補助するご寄付をいた だき、スペイン語版は原文のまま、日本語版は原文 をもとに、筆者が『ロンダに咲いた桜』の脚本執筆の 際に取材で得た事柄も加え、より詳しい内容といた しました。



《ロンダのカベサ氏の自宅サロンにて》 2017年9月24日

国際交流の史実を記録したこの企画は、大変光栄 なことに、日本スペイン外交関係樹立 150 周年事業

に認定されました。『さくらとロンダ』は、駐スペイン日本大使館、駐日スペイン大使館、セルバン テス文化センター東京、ロンダ市の観光局と公共施設に寄贈し、できるだけ多くの方にご覧いただ けるよう、筆者が代表を務める、日本サルスエラ協会のホームページからも全編を閲覧できるよう にいたしました。

www.zarzuelajp.com/los-cerezos-en-flor-de-ronda

桜になった瑛子さんも、春田さんと『さくらとロンダ』の発表を喜んでいると思います。 両国の平和を願う思いが、絵本冊子を手にされた皆様に受け継がれていきますよう祈っております。

"ある絵画家の夢"から始まり、みんなで咲かせた奇跡の花"ロンダに咲いた桜" 世界中の人が"さくらとロンダ"を知ることで笑顔になり、互いに手を取り合う、 平和な世の中になりますように…

最後に、お言葉を寄せてくださいました、水上正史駐スペイン日本大使、ゴンサロ・デ・ベニート 駐日スペイン大使、日本スペイン外交関係樹立 150 周年事業としてお力添えくださいました、日本大 使館の鈴木暁様、スペイン大使館のホセ・アントニオ・デ・オリ参事官、挿絵を描いてくださったホ セ・カベサ氏、ご寄付くださいました中村篤二様、編集とデザインを手がけてくださった、クリエイ ティブ・ノアの斎藤肇様、カトリーヌ・ルビン様、スペイン語翻訳をサポートしてくださったヘスス・ パブロ氏、日本語とスペイン語の翻訳、通訳、現地コーディネーターとして、力の限りを尽くしてく れた娘の小野瑠奈アンヘラ、企画を成し遂げるまで支えてくれた夫に、心からの感謝を捧げます。

2018年3月



桜田ゆみ(さくらだゆみ)

東京都出身。脚本家、演出家、放送作家、サルスエラ歌手、日本サルスエラ協会代表。 武蔵野音楽大学声楽科卒業後、92~97年 スペインに留学。マドリード声楽音楽院 Escuela de Superior de Canto de Madrid にてオペラとサルスエラを学ぶ。サルスエラ 「ルイサ・フェルナンダ」、「ラバピエスの理髪師」、「エル・カセリオ」、「パロマの前夜 祭」、「ラ・グランビア」を日本初演し、2005年 国際ロータリー財団 100 周年記念「専 門職務奉仕賞」受賞。創作サルスエラ「ロンダに咲いた桜」上演。2017年 スペイン国王 フェリペ6世訪日の際、謁見の儀にてサルスエラを通した日西文化交流への貢献に対 し奨励を賜る。

桜田ゆみ公式ホームページ www.sakurada-yumi.com



中村 瑛子 (なかむらえいこ) 1941-2016

満州生まれ、島根県松江市出身。島根大学付属中学校、高校卒業。 津田塾大学英文科卒業。国際電信電話株式会社(KDD)勤務を経て、1990年より横浜 スペイン協会の理事会員として、ロンダ市に於ける桜植樹に協力。



ホセ・カベサ・ディアス (José Cabeza Díaz)

スペイン出身。ロンダ市の彫刻家、モデルメーカー、デザイナー、画家。 玩具「Juguetes del Sur(南の玩具)」、ディスプレイデザイン「Sucesores de Rafael Martín(ラファエル・マルティンの後継者たち)」、「Calzados de Gody (ゴディ・シューズ)」などの数々の作品を生み出した。「カルメン」、「エレニー」といった映画において彫刻およびモデル・メーカーを担当する。国内外の展示会を開催。13年間にわたりマドリッド国際旅行フォーラムでロンダのスタンドの責任者を務め、同イベントにて金賞を受賞。同氏の1400の絵画および60の彫刻は、日本を含む世界各国に収められている。横浜展示会を日西国際文化交流協会10周年イベントとして実施。



小野 瑠奈アンヘラ (おのるなあんへら)

マドリード生まれ、5歳までスペインで育つ。東星学園中学、高等学校卒業。上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業(副専攻、国際関係学)。2016年、外務省入省。 2017年より外交官補として駐スペイン日本大使館勤務。

企画・構成・文: 桜田 ゆみ スペイン語手記: 中村 瑛子

日本語訳・スペイン語訳: 小野 瑠奈アンヘラ 挿 絵: ホセ・カベサ・ディアス

デザイン: クリエイティブ・ノア [斎藤 肇 カトリーヌ・ルビン]

©Yumi Sakurada

本書の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上認められておりません。

この物語の挿絵を、私の人生を変えた彼らに捧げる 春田美樹氏、

ホセ・マリア・オルテガ・デ・ラ・クルス、 中村瑛子女史、 そして幼き頃から私を支えてくれた 我が伴侶へ



日本スペイン外交関係樹立 150 周年事業









駐日スペイン大使館

セルバンテス文化センター東京

スペイン政府観光局

日本サルスエラ協会

本書は日本サルスエラ協会のホームページから、スペイン語版と日本語版の全編を閲覧できます。

ご感想、資料等についてのご相談もホームページにお寄せください。

日本サルスエラ協会「Los Cerezos en Flor de Ronda ~ロンダに咲いた桜~」 www.zarzuelajp.com/los-cerezos-en-flor-de-ronda

"EL SUEÑO DE UN PINTOR"

"ある絵画家の夢"

